

6章 総合問題6

問題

【1】

解答

(1) ウ (2) ㉔ (3) $c \rightarrow d \rightarrow a \rightarrow b$ (4) c

解説

(1) 要旨をつかむ

出題文は10の段落から成っている。最初のステップは、第1段落を分析することである。

導入部で予想されるパターンは「既知の事実——新しい事実」である。よく見られるのは、トランジション・マーカーを使って、既知の情報を背景として述べた最初の部分と、文章の主題である新しい情報を紹介した2番目の部分とを対比させるパターンだ。一般的にその際のマーカーは、but, however, actually, またはin factである。しかし、そのようなマーカーはここでは使われていない。「既知の事実——新しい事実」という関係は、「過去の実事—新しい事実」の形をとることもよくある（新しい発見が常になされている科学知識の分野では特にそうである）ので、時を示す表現も鍵になることが多い。本問の場合、否定表現とuntilが組み合わせあって対比を示し、主題を導入している。

ℓ. 4~6 *No one could have guessed, until a few years ago, that an important clue as to where to search for life beyond our planet might be right here on Earth, beneath our feet.* (ほんの数年前までは、この惑星以外のどこに生命を探せばいいかに関しての重要な手掛かりが、我々の足元の、まさにこの地球上にあるかもしれないとは、誰も思いもよらなかっただろう。)

上述のイタリックの部分は、now we can guess that ~ (今では我々は~ということを考えてつくことができる) という意味である。that に続く情報がこの文章の主題、つまり、「新しいもの」として提示されている情報である。しかし、もし第1段落で読むのをやめてしまえば、この文章の具体的な内容はまだ明らかにならない。地表の下深くで生きている微生物のことはまだ述べられていない。その存在と重要性についてすでに知っている人なら、推測できるかもしれないが、何か別のもの、「我々の足の下」にある (beneath our feet) 何かのことを述べている可能性もある。遺跡かもしれないし、隕石かもしれない。これらは両方とも、地球外生命が存在する証拠として主張する人もいるからだ。具体的な内容は第2段落の初めで述べられている。地下何キロもの場所で生きている微生物の発見についてである。

(2) ディスコース・マーカーの役割を理解する

最近の多くの参考書に述べられていることとは異なり、ディスコース・マーカーに注意することは、東大入試に合格する鍵にはならない。しかし、その意味と役割を理解しておく必要がある。(1)の問いでは、すでに述べられたことを指す代名詞の this と組み合わせあったディスコース・マーカーの In spite of が使われている。

In spite of は譲歩と対照を示す。あとに続くのは、「これらの微生物」の重要性についての

記述であり、肯定的な内容である。よって、このセンテンスは、後ろに対照な内容の記述が続いている位置に入る。

正解は**ウ**である。前にある2つのセンテンスでは、その微生物が太陽の光など、生命の維持に必要なと思われるものを受けられないことについて述べられていて、つまり、否定的な内容だからだ。

ℓ. 10 little else that we would consider necessities (我々が生存に不可欠と考える、それ以外のものはほとんど得られない)

ℓ. 11 cut off from sunlight for hundreds of millions of years (何億年もの間、日光から遮断されてきた)

(3) 要点を見逃さない

第3段落で、受験生は不適切なセンテンスを1つ削除しなければならない。正解は**㉔**である。この文章のテーマは宇宙で生命を探すことであって、資源を探すことではない。この問いは、個々の言葉の結びつきではなく、内容の連続性が焦点となっている。

(4) 最後の4つの段落を正しい順序に並べ換える

最も複雑で難しい設問である。受験生は、恣意的に並べられた4つの段落同士を比べた上で、出題文とも比較しなければならないからだ。ここでは、first, second, third のような手がかりとなる便利なディスコース・マーカーもない。

正解を導くためには、筆者が言いたいことを明確に理解し、文章に一貫性がある時にどのような言語的特徴が表れるかを把握する必要がある。本問の場合は、「指示(語)」と単語同士の関係(「語彙的一貫性」)が最も重要だ。

c が最初に来なければならない。最初のセンテンスの主語は The whole area である。この文章全体はおもに場所について論じているので、場所に関する言葉が頻繁に使われているが、具体的な場所は地上でもほかの惑星でもなく、地下の特定の場所、すなわち、南アフリカにある金鉱の一番深い部分である。第1段落の「主題」文に始まる、こうした一連の表現に注意したい。

ℓ. 6 beneath our feet (我々の足の下)

ℓ. 8 thousands of meters beneath the surface (地表の何千メートルも下)

ℓ. 12 underground food chain (地下の食物連鎖)

ℓ. 13 underground communities (地下の社会)

ℓ. 16 these underground microbes (これらの地下の微生物)

ℓ. 19 subsurface environments very similar to Earth's (地球のそれととてもよく似ている地表下の環境)

ℓ. 20 the interiors of some of these planets (これらの惑星のいくつかの内部)

ℓ. 21 the deep interiors (False lead! This sentence is only superficially connected to the point of the essay.)

ℓ. 23 deep Earth (地下深いところ)

ℓ. 23 deep subsurface of Mars (火星の地下深いところ)

ℓ. 24 Earth's underground (地球の地下)

ℓ. 29 the zone where life can be sustained (生命が存在し続けられる場所)

ℓ. 31 Earth's underground (地球の地下)

ℓ. 38 Earth's underground (地球の地下)

ℓ. 31 の Earth's underground の同格が the area of most interest (非常に興味深い場所) であり、ここで area という語が初めて使われている。しかし、これは **c** で述べられている特定の場所ではない。

次に、第5段落 (ℓ. 35) で、Recently, however という2つのトランジション・マーカーが、これから証拠発見の具体的事実が述べられることを示している。金鉱の名前は重要ではない。重要なのは、それがとても深いものであるということである。金鉱は「場所」なので、ℓ. 37 にあるように here で受けることができる。

第6段落で、**c** の the whole area に結びつく場所に初めて言及される。the deepest area that had been dug most recently (最も最近に掘られた最も深い場所) という部分である。そして、47～48行目の By the time they reached the deepest area (彼らが最も深い場所にたどり着く頃には) という部分でも再び表れている。

c の The whole area は、上記の2つの area と直接結びついていて、次に述べられる内容は前に述べられたことと自然につながっている。金鉱へ入っていく過程を説明しているからである。

d の段落が次に来るが、ここで金鉱の調査の説明を締めくくっている。their は the researchers を受けており、sample (サンプル) とは彼らが金鉱に入って採集したものである。

a の段落では、数カ月後の研究の過程が述べられている。not until months later は、金鉱での探索の終了を説明した直前の段落 **d** の最後と、時間の流れがつながっている。their samples (彼らが採取したサンプル) という言葉によって、表現上のつながりもある。their は、前に出てきた they / the researchers を受けている。

b の段落は The discovery of these strange microbes (この未知の微生物の発見) で始まっているが、これがこの文章の主題である。these strange microbes とは、前の段落 **a** の2～5行目で、採取された標本の中に見られると述べられている特定の微生物のことである。

(5) 表題を選ぶ

この問いは文章全体の趣旨と関わっている。

a 括りが広すぎる。この文章は生命を探すあらゆる方法を述べているのではない。

b 微生物がどのように生き延びているかは説明されていない。

c 正解。

d 的はずれである。

e これは本題ではない。

全訳

人間の頭脳の進化の過程のある時点で、我々はこの惑星以外に生命が存在する可能性を考え始めた。ひょっとしたら、それは何千年も前の、星の輝く晩だったであろう。その時、ある原始人が、自分の住む洞穴から出てきて、空を眺め、その深遠な問いを初めて口にしたのだらう。我々は唯一の存在なのだろうか。これは、それ以来ずっと我々は問い続けてきた。ほんの数年前までは、この惑星以外のどこに生命を探せばいいかに関しての重要な手掛かりが、まさにこの地球上に、しかも我々の足の下、つまり地下に存在しているかもしれないと

は、誰も思いもよらなかっただろう。

我々は、地球上の生命の起源に関する最近の調査の中で、温度と圧力が極めて高い数千メートルの地下で微生物が繁栄しているという、一連の興味深い発見をした。岩石と粘土層の中では、これらの微生物は、水は得られるものの、我々が生存に不可欠と考える、それ以外のものはほとんど得られないことが多い。例えば、その多くが、何億年もの間、日光から遮断されてきた。このようなことがあるにもかかわらず、これらの微生物は、その大きさとはまったく不釣り合いな重要性を持っている。植物が地表でそうであるように、彼らは地下の食物連鎖の基礎を成している。そして、証明されたこのような地下社会の存在は、この惑星や、その他の場所での生命に関する我々の考えを根底から変えたのだ。それは、我々の多くが高校の生物の時間に習ったこと——すべての生命は最終的に太陽エネルギーに依存すること——と矛盾する。今では、一部の科学者は、これらの地下微生物は地球の最初の生命体の直系の子孫かもしれないと考えている。

天文学者やその他の科学者は、宇宙の惑星の多くが地球のそれに極めて近い地下環境を持っていそうだという考えで一致している。そのような幾つかの惑星の内部の温度と圧力の状態は、水を保持していることさえありうるかもしれない。地球の深部の極限の環境で生き延びる生命体があるのだから、火星の深部がそうでないなどということがあるだろうか。それに、一部の人たちが推測しているように、もし生命が地球の地下で発生したのだったら、生命は太陽系や、それより広い宇宙の他の場所の、多くの似たような環境の1つにおいて生じていないなどということがあり得るだろうか。我々は、太陽からエネルギーをもらう生物以外はあり得ないという偏狭な物の見方をして、生命を維持することのできる惑星があるとすれば、それは表面の状況が我々のそれと近い場所にあるだろうと推測してきた。しかしながら、今では、広く支持されているこの仮定は間違いで、生命を維持することのできる場所は、我々のこの惑星内でも、全宇宙においてでも、かなり過少見積りされてきたように思える。

地球の地下を調べている人間にとって最も関心がある地域は、幾つかの点で、遠い惑星とまったく同じくらい遠い。彼らはこれまで、自分たちはその場所へ行くことができないので、地下深くから引き上げられて持ってこられた土や岩の欠けらを使つての、実験室内での研究に満足するしかなかった。

しかしながら、最近、小グループの科学者が、世界で最も深い坑道の1つ、南アフリカの東ドリフォンティン金鉱、に潜ることで、彼らの夢を叶える方法を発見したのだ。ここには地下3キロメートル以上に達する一連のトンネルが掘られている。この坑道は建設に何十年もかかっており、どこから見ても技術工学の驚異である。典型的な生産シフトでは、5千人以上の労働者が地下に潜り、新たなトンネルを掘ったり、支持構造物を作ったり、金鉱石を掘り出したりしている。

1998年秋、プリンストン大学の科学者チュリス・オンシュトットと、選りすぐりの学者のチームが、鉱山労働者と一緒に、数週間この地下の金鉱に潜った。初日、研究者たちは最も新しく掘られた、おそらく地表の微生物による汚染が最も少ないと思われる最深部をまっすぐ目指すことにした。下っていく途中、研究者たちは、地球の奥に入っていくにつれて、圧力が高まり温度が上昇するのを感じた。彼らが最深部に着いた時には、彼らは水筒に手を

伸ばすほど汗をかいていた。この3キロメートルの深さでの岩の表面温度は60℃だった。

c その場所全体が活気に満ちていて、研究者たちは、掘削に使われるドリルや、その他の機械の音に声がかき消されないように、大声で叫ぶようにして互いに話さなくてはいけなかった。労働者たちのヘルメットに付けられているライトが、埃に満ちた闇の中のあちこちに見え、空気中には発破の匂いがした。騒音や肉体的不快や、極めて現実的な事故の危険を無視して、科学者たちは仕事に取り掛かった。

d サンプルを入れる袋が一杯になると、彼らはしばらくその辺を見て回って過ごした。次の日に戻る計画だったが、彼らは非常に興奮していて、去り難かった。最終的に行動力が衰え始めると、彼らはエレベータの所まで歩いて行き、それに乗って地表へ戻った。

a 彼らが実験室でのサンプルの分析を終えることができたのは、何カ月も後になってからのことだった。彼らはサンプルの幾つかが、予想したよりもずっと高密度の、1グラム当たり十万から百万の微生物を含んでいることを知った。これらの微生物は確かに、変わった方法で生命を維持していた。

b 南アフリカの金鉱山での奇妙な微生物の発見は、科学者たちに、地球上で生命がどのようにして進化してきたかを理解するためには、地下の世界の更なる研究が絶対に不可欠だと確信させた。彼らは今、地球外生物の調査で宇宙に注目しているのと同じくらい、地球の内部深くに注目している。

<不要な一文>

① その深部は近い未来と遠い未来の両方で、我々の社会にとって非常に有用になるであろう、貴重な天然資源も含んでいるかもしれない。

[2]

解答

「全訳」下線部参照。

全訳

教育の目的は、子供を人生に適応させることであるということに、誰も異存はない。しかしながら、①子供の人生に対する適応をどのようにすべきであるかということに関しては、その問題に関して意見を有する人の数だけの意見が存在する。例えば、我が国の教師のうちの優に半数が、想像力こそが、あらゆる文明の根幹を成すということを理解できない。②愛と同様に、想像力も「世界を動かす」と言っても過言ではないと思われるが、想像力は目に見えないところで働くので、その成果はほとんど評価されないのだ。

注

ℓ. 1 ◇ fit A for B = make A suitable for B

◇ the child : 総称。

◇ there are as many opinions ~ as there are men … 「人の数だけ意見が存在する；一人一人の意見が異なる」：「多くの意見」は誤訳。

ℓ. 2 ◇ as to = about; concerning

◇ them = opinions as to how that fitting is to be done

ℓ. 4 ◇ may very fairly do < may well do 「正当に…し得る」

○ fairly = in a just and honest manner

- 0.5 ◇ credit = good reputation; praise; approval 「好評, 賞賛」ここでは「信用」の意味では用いられていない。

【3】

解答・解説

- (1) e

○ I argued that ~, but my mother refused to listen (to me)

- (2) from

○ keep [prevent; stop] A from ...ing 「Aが...するのを妨げる」

- (3) b

○ more U 「それ以上のこと [もの]」

Ex. There is *more* to his success than diligence.

(彼の成功は勤勉だけでもたらされたのではない。)

- (4) for

○ be fit for ~ 「~に合った」

- (5) a

career [kəˈrɪər] と appear [əˈpɪər] のアクセントのある母音が一致する。

- (6) 「全訳」下線部①参照。

○ writing = the activity of writing, especially of writing books for money

○ run in = (of a quality or trait) be common or inherent in members of (a family), especially over several generations

- (7) d 「エドウィン・ジェームズが今日どれほど偉くなったか見てみなさい。」

a 彼は英語をバディの学校で教えている。

b 彼はいつものように新聞社にいる。

c 彼は屋根の上に上がって煙突を修理している。

d 彼は誰もが知るように記者として成功している。

e 彼はボルチモアへ行って、母親と共に暮らしている。

- (8)

- (1) 「私の少年時代を振り返ってみると、私は常に家庭内で冴えなかったようである。」

(a) オ poor

○ cut a poor figure 「(人が) poor な印象を与える; poor に見える」

- (2) 「私は物書きは実務にほとんど関係がないと思っていた。そしてそのことがなぜ私が従兄エドウィンがたどった行路に乗り出したかの理由であった。」

(b) イ little

○ have little to do with ~ 「~に対してほとんど関係がない」

(c) 工 set out

○ set out on = begin

(3) 「私の母は、私が人生において他に抜きん出ることを切望していたが、私の為すことすべてが彼女の期待に達しなかった。」

○ get ahead = advance (beyond someone else)

(d) イ anxious

○ anxious for someone to *do* = eager for someone to *do*

(e) ウ fell short

○ fall short of = be insufficient for

全訳

ある晩家にいると、誰かが少しバンジョーを聞かせてくれと言い出した。アレン叔父がとりわけ執拗であった。私は人前で演奏するには、まだ早過ぎると言ったが、母はそれを聞き入れようとはしなかった。そこから逃れ出ることは不可能であった。私は台所の椅子に座って、バンジョーのピックで弦を掻き鳴らし始めた。時々、思い通りの音が出た。

演奏が終わると、パット叔母は小声で嘆きの言葉をつぶやいた。

アレン叔父は何も言わなかったが、彼は口を固く結んで吹き出すのをこらえていた。母も何も言わなかった。しばらく彼女は何事かを考えているようであった。それから彼女は言った。「あなた、落胆してはいけません。人生にはバンジョーを弾くこと以上のことがあるのです。」だがそれは何だろう。

この頃、私は自分に向いている唯一のことは物書きになることであると決めていたが、この考えは自分は絶対に実務には向かず、そして物書きはそのような実務の一切を必要としないという想像にのみ基づいていた。物書きは当時、子供の出世を願う親の多くが子供に目指すように奨励する職業ではなかったけれども、母は私を思い止まらせようとはしなかった。

「④我が家には物書きの血が流れています。」と彼女は言った。そしてそれはその通りのようであった。祖母はテニソン風の詩を書いていた。母の叔父の一人はボルチモア・アメリカン紙の記者をしていたし、もう少しの運があったら、チャーリー叔父はブルックリン・イーグル紙で職を得ていたかも知れなからう。そして従兄エドウィンは、物書きも新聞社で採用されれば、ミダス王のような大金持ちになれるという証拠になっていた。

「エドウィン・ジェームズが今どれほど偉くなったか見てみなさい。エドウィンにそれができたのなら、お前にもできます。」私はこの言葉を、7年生の英語の宿題を母と一緒にやりながら何度も聞かされた。彼女は綴りや文法に誤りを見付けると、虎のように襲いかかった。そして彼女は多くの誤りを見付けた。私は才気が煥発する書き手ではなかった。1度、農産物に関する作文を書く宿題が出された時、私は小麦について書くことにした。母は出来上がった文章を絶望的な気持ちで確認した。

「お前はこれよりももっと上手に書けます。」と彼女は言った。

注

ℓ. 2 ◇ persistent = continuing in an opinion or course of action in spite of difficulty

◇ argue = maintain

ℓ. 3 ◇ there is no ...ing = it is impossible to *do*

ℓ. 4 ◇ stab ~ = push (something) into (something) ; pierce 「バンジョーの爪を絃に向かって突き刺す」主人公の技量の低さを物語る描写。

- ◇ string = a thin cord made of twisted threads
- ◇ now and then = from time to time; occasionally
- ◇ hit one 「狙った弦に命中する」
- ℓ. 5 ◇ murmur = say in a low voice
 - ◇ Sweet mother of God! : God を含む慣用表現はしばしば‘驚き・怒り・嘆き’などの感情を表す。いかなる感情を表しているかは文脈から判断する。
- ℓ. 8 ◇ burst into laughter = burst out laughing
- ℓ. 12 ◇ the only thing (that) I was fit for …
- ℓ. 13 ◇ rest on = be based on
 - ◇ solely = only
 - ◇ suspicion = a feeling or thought that something is possible, likely, or true.
 - ◇ and that writing didn't require any (real work) : that 以下は my suspicion と同格。
- ℓ. 15 ◇ that … : 先行詞は a career。文末の for の目的語。
- ℓ. 16 ◇ it seemed to (run in the family) : it は writing を指す。
- ℓ. 17 ◇ in the manner of = in the style of
- ℓ. 18 ◇ might : 仮定法。with a little more luck が条件。
- ℓ. 19 ◇ could : 仮定法。when done for newspapers が条件。「(それが) 新聞のためになされる時にはできるだろう」。
- ℓ. 21 ◇ could : 直説法。
- ℓ. 22 ◇ toil over = work hard and continuously at
- ℓ. 23 ◇ pounce = make a sudden attack; seize eagerly upon something
 - ◇ tigress = a female tiger
- ℓ. 24 ◇ spot = catch sight of; discover; recognize
 - ◇ sparkling = brilliant
 - ◇ assign = give out (something) as a task
 - ◇ composition = an essay, especially one written by a school or college student (作文)
- ℓ. 25 ◇ wheat 「小麦」

【4】

解答

「全訳」下線部参照。

全訳

我々の知識や力は、かつては誰一人として可能だとは思わなかったほどの水準にまで豊かになり、また増大してきた。これにより、人間が生存する状況を、多くの点で、比較にならないほどに望ましいものにすることが可能になった。しかし知識と力の進歩に熱中する余りに、我々は文明そのものに対して誤った考えを抱くに至ってしまった。我々は、文明が達成した物質的な成果を過剰なまでに高く評価してしまい、人生において精神的要素が重要であるということをもはや必要とされているほど鮮明には心に刻みつけてはいないのだ。

注

- ℓ. 1 ◇ that … : 先行詞は an extent.
◇ no one would have thought possible
○ would have 過去分詞 … : 仮定法過去完了。主語 (= no one) が仮定の意を含む。
「(過去においては) たとえどの 1 人として」。
- ℓ. 2 ◇ make O C : O = the conditions of human existence, C = incomparably more favorable in numerous respects。
- ℓ. 4 ◇ defective = imperfect or faulty
◇ conception 「考え方; とらえ方」 (= an idea, plan, etc. in the mind)
cf. concept (できあがった概念) (= a general notion)
- ℓ. 5 ◇ its < it = civilization
◇ material = not spiritual; having to do with physical objects rather than the mind or spirit
◇ no longer ~ = not ~ any longer 「もはや～ない」
◇ keep ~ in mind = bear ~ in mind; remember ~
○ mind = memory
- ℓ. 6 ◇ as vividly as is necessary : keep in mind を修飾。
○ vividly = lively; clear
◇ the importance of the spiritual element in life : the spiritual element is important in life の名詞化表現。

【5】

解答

- (1) **b** (2) **b** (3) **c** (4) **d**
(5) **d** (6) **c** (7) **a** (8) **a**

Script

CD 2 4 ~ 6

W : Hi, Duncan, how's it going?

M : Not bad, Sarah, but I've been pretty busy with my research project lately.

W : For what course?

M : I'm taking Dr. Sussman's course, 20th Century American Cultural History.

⁵ W : I've heard he is a tough grader. Does he make you read tons of books?

M : No, not really. Of course we have to read a lot, but much of it is popular fiction, like
Tarzan of the Apes and The Wizard of Oz.

W : That doesn't sound too difficult.

M : Well, the books are easy reads, but the point is to identify what they say about cultural
10 and social attitudes. It's challenging, but interesting. And Sussman is a great lecturer.
The difficulty is that he insists on originality. If you just repeat what he himself said or
wrote, he'll throw your paper in the wastebasket.

W : You're kidding!

M : Well, that's what he said anyway.

15 W : What's your assignment?

M : We have to pick a twentieth century invention and trace its social impacts.

W : You mean like television or cars or computers?

M : Yeah, but those topics are too obvious. We aren't allowed to choose them because so
much has been written about them already.

20 W : What's your topic?

M : I'm writing about the social impacts of central heating.

W : And what are they?

M : Well, besides the obvious results of people being less cold at work and at home, some
interesting changes in social behavior occurred. For one thing, clothing styles changed.
25 The coats men wore indoors became lighter and shorter, gradually approaching the
style of suit businessmen wear today. And of course women's skirts got shorter.

W : But wasn't that a matter of changing moral standards?

M : Not really. Working class women who sewed clothes in places like New York during
the 19th century had to stay close to the small, coal-burning stoves that the factories
30 provided in order to keep them warm enough to be able to use their fingers. But the
direct heat of the stoves would burn the skin on their legs if they didn't wear long,
thick woolen skirts. Central heating changed that, and shorter skirt styles followed as
central heating became widespread.

W : That's interesting.

35 M : There was also an impact on sleeping habits. Up to the late nineteenth century, people
commonly slept communally, that is, all in the same bed, in order to keep warm. Not
only families, but even strangers often found themselves sharing the same bed. Of
course, wealthy people had different circumstances, but even they might find
themselves sharing a bed with a stranger if they traveled in the countryside and had to
40 stop at an inn. Central heating led to more privacy in sleeping arrangements.

W : Where did you get that information?

M : There are lots of sources. The writings of Mark Twain, for example, are very
descriptive of how people lived in his day and how they reacted to various
circumstances. There are also lots of journals and diaries. But you can also get
45 information from newspaper columns and advertisements and even mail-order
catalogues about what was going in and out of fashion and how people at the time
reacted to the changes.

W : Well, it sounds like you have a good idea for your paper.

M : I hope so. (524 words)

全訳

女：こんにちは，ダンカン，調子はどう？

男：まあまあだよ，サラ。でも最近，研究課題でとても忙しいよ。

女：何の講義の？

男：サスマン教授の「20世紀アメリカ文化史」の講義を取ってるんだ。

女：彼は成績の評価が厳しいって聞いているわ。とんでもない量の本を読ませるの？

男：そうでもないよ。もちろんたくさん読まなければならないんだけど，ほとんどは『類人
猿ターザン』や『オズの魔法使い』のような大衆小説だよ。

女：そんなに難しくなさそうね。

男：うーん，本は簡単に読めるものだけど，大切なのは，それらが文化的・社会的な態度に
ついて述べていることを明らかにすることなんだ。難しいけど，面白いよ。それにサス
マン教授は素晴らしい講師だし。難しいのは，彼は常に独創性を求めていることだよ。
彼自身が言ったり書いたりしたことを繰り返すだけだと，レポートはくずかご行きだ。

女：まさか！

男：まあ，とにかく彼はそう言ったんだ。

女：課題は何なの？

男：20 世紀の発明を 1 つ選んで、それが社会に与えた影響を調べなければならないんだ。

女：テレビとか自動車とかコンピュータのようなもの？

男：そう、でもそういうテーマはあまりに明白すぎる。そういうテーマについてはすでにたくさん書かれているので、選んではいけないんだ。

女：あなたのテーマは何なの？

男：僕はセントラル・ヒーティングが社会に及ぼした影響について書いてるよ。

女：で、それはどんな影響？

男：ええと、職場でも家でも人々が寒さを感じなくなったという明らかな影響のほかに、社会的な行動に面白い変化がいくつか起こったんだ。1 つには、洋服のスタイルが変わった。男性が室内で着るコートがより軽くて短くなって、現在ビジネスマンが着ているスーツのスタイルに徐々に近づいていったんだよ。それから、もちろん女性のスカートも短くなった。

女：でも、それは道徳的基準の変化の問題ではなかったの？

男：そういうことじゃないよ。19 世紀にニューヨークのような場所で裁縫の仕事をしていた労働者階級の女性たちは、指が使える暖かさを保つために、工場が支給した石炭ストーブのそばにいなけりゃならなかった。でも、長くて厚いウール地のスカートを履いていないと、ストーブのじかの熱で脚の皮膚が焼けてしまったんだよ。セントラル・ヒーティングのおかげでそれが変わり、セントラル・ヒーティングが普及するにつれて、短いスカートが出てきたんだ。

女：それは面白いね。

男：睡眠の習慣にも影響があったんだ。19 世紀末になるまで、人々は普通、暖かさを保つために一緒に寝ていたんだよ。つまり、皆が同じベッドでね。家族だけではなくて、しばしば知らない人まで同じベッドに入っていたんだよ。もちろん、裕福な人たちは事情が違ったけれど、そういう人たちでさえも、田舎を旅行して宿に泊まらなければならないと、知らない人と一緒にベッドに入っていた。セントラル・ヒーティングによって、睡眠時の決まりごとにプライバシーがより重要視されるようになったんだよ。

女：どこでそういう情報を見つけたの？

男：情報源はたくさんあるよ。例えば、マーク・トウェインの著作には、当時の人々の生活の様子や、さまざまな状況に対する彼らの反応がたくさん書かれている。日誌や日記もたくさんある。でも、何が流行して何が廃れたか、また、その変化に当時の人々がどのように反応したかについては、新聞のコラムや広告、それから通信販売のカatalogなんかからも情報を得ることができるよ。

女：レポートのいいアイデアを思いついたみたいね。

男：そう願うよ。

注

- ℓ. 1 ◇ How's it going? 「調子はどう?」 How are you? よりくだけたあいさつの言葉。it は漠然とした周りの状況のことで、特に具体的に何かを指しているわけではない。
- ℓ. 2 ◇ Not bad. 「まあまあだね。」
- ℓ. 5 ◇ tough grader 「成績を厳しくつける人」 grade ～は「～の成績をつける」という意

味の動詞。

- ◇ tons of ～「大量の；たくさん」
- ℓ. 6 ◇ not really 「それほどでもない；そういうことでもない」単に No. というより否定の意味を和らげる言い方。
- ℓ. 7 ◇ Tarzan of the Apes 『類人猿ターザン』 Edgar Rice Burroughs の作品（1914 年）。
◇ The Wizard of Oz 『オズの魔法使い』 L. Frank Baum の作品（1900 年）。
- ℓ. 9 ◇ read 「読み物」ここでは名詞として使われている。
◇ identify ～「～が何であるかを明らかにする」
- ℓ. 10 ◇ challenging 「難しい；能力を試すような；意欲をかき立てる」この言葉は通常、肯定的な意味合いで用いられることが多い。
◇ lecturer 「講師；講義をする人」< lecture 「講義」
- ℓ. 12 ◇ paper 「レポート；論文；作文」
◇ wastebasket 「くずかご」
- ℓ. 16 ◇ trace ～「～をたどる；～を明らかにする」
- ℓ. 21 ◇ central heating 「セントラル・ヒーティング」建物の 1 カ所に熱源装置を設け、そこから建物全体を暖房する方式。
- ℓ. 28 ◇ sew [sóu] ～「～を縫う」saw [só:] (see の過去形) との発音の違いに注意。
- ℓ. 29 ◇ coal-burning stove 「石炭ストーブ」
- ℓ. 32 ◇ woolen = made of wool
- ℓ. 33 ◇ widespread 「広く行きわたった；広まった」形容詞。
- ℓ. 36 ◇ communally 「一緒に；共同で」
Ex. Meals are taken *communally* in the dining room.
(食事は食堂に集まって取ることにしています。)
- ℓ. 37 ◇ find oneself = be
Ex. With the deadline approaching, they *found themselves* working very long hours every day.
(締切が近づいていたので、彼らは毎日長時間働いていた。)
- ℓ. 40 ◇ arrangement 「取り決め；申し合わせ」
- ℓ. 42 ◇ writing 「著作；作品」
- ℓ. 43 ◇ descriptive of ～「～を記述した」cf. describe ～「～を記述する」
◇ in his day 「彼の時代に」
- ℓ. 44 ◇ journal 「日誌；日記；新聞」
- ℓ. 45 ◇ column 「コラム記事」
◇ mail-order 「通信販売」
- ℓ. 46 ◇ catalogue 「カタログ」
◇ in and out of fashion : この in は fashion にかかっている。つまり, in fashion (流行して) と out of fashion (廃れて；時代遅れになって) が and で結ばれた形。

添削課題

解答例

Cell phones have drastically changed social life in Japan. Nearly everyone has one. This is not surprising, since they perform many useful functions. But many people have become so involved in their phones that they can hardly resist using them, even while walking, driving, or riding bicycles. I often see dating couples independently using their phones instead of having conversation. I cannot see this as an advance in human communication. (70 words)

解説

Some key points to check:

- (1) Write in complete sentences. Make sure that each sentence has a main clause. Without one, it is not a complete sentence.
- (2) Make sure that subjects and verbs agree.
- (3) Check verb forms and make sure they are consistent not only within each sentence, but within the composition as a whole.
- (4) English has three forms for making a generalization with a noun:
 - A cell phone
 - The cell phone
 - Cell phones

Generally, the third (plural form) choice is best.



会員番号

氏 名